



発行所 株式会社労働実務
東京都新宿区下落合1-2-16
(03)3954-6313
振替口座 00140-5-70340
発行日 毎月5・15・25日
購読料 年額 29,800円
(消費税込み)

サラリーマンの読書会

新しい労働社会

—雇用システムの再構築へ—

濱口 桂一郎 著

第1刷の発行は09年。06年にはワーキングプアがNHKで「発見」され格差社会の議論があった。

格差是正のための同一労働同一賃金は最近では働き方改革とも言われているが、本書を手にとって耳障りの良い言葉と距離を取った人も多はず。現実を知る労務管理

史的な視点とEUとの比較を見て納得したのである。

第4章では「正社員と非正規労働者」の間で賃金原資をどのように再配分し、両社にとって納得できるような共通の賃金制度を構築していくかが問題とし、正社員の利害を代表する労働組合

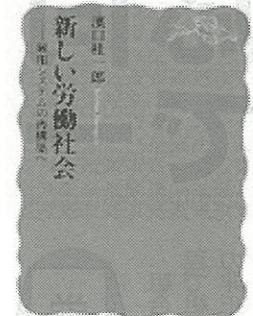
か存在しないところで、「賃金原資の再分配を行わなければならない」という点に、現代の日本の雇用システムが直面する最大の問題点が存在する

という指摘を行い、正規はもちろん非正規との間で集団的合意形成の構築が必要としていた。非正規労働者の社会保障の現状や雇止め

ワーキングプアへの同情というより、ワーキングプアを選んだ労働者への自己責任論があふれている。

しかも、賃金制度の改革は本書が危惧していた方法で解決されようとしている。朝日新聞の報道によれば、日本郵政グループが非正規社員の待遇格差を縮めるために、正社員の住居手当を廃止する

から同一労働同一賃金を正社員の労働条件を切り下げる方法で実現することは予想されたが、それが法の趣旨に反することは言うまでもない。根本的な問題を認識しないまま目先の問題を解決する例とも考えられる。当事者が本書を読み正規と非正規との間で賃金原資の再分配を行わための合意形成のシステムを構築していれば結果はどうなったのだろうか。



10年前から変わったところを

10年前の提言から

賃金原資は一つなのだ